

学校教育目標

『思いやりの心もち すすんで学び たくましく生きる子どもの育成』

- 思いやりの心もち、相手の身になって行動できる子ども (徳…やさしく)
- すすんで学び、豊かな思考力と表現力をもつ子ども (知…かしこく)
- 健康でたくましく、最後までやり遂げる子ども (体…たくましく)



平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

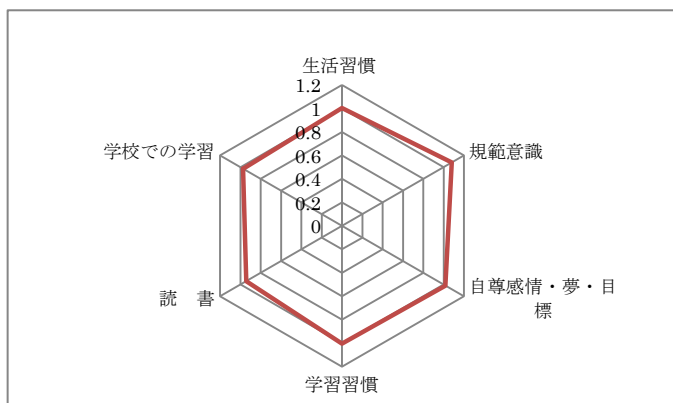
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・言語に関しては、5ポイント以上上回るものの、「読むこと」「書くこと」に関する問題は、全国平均正答率と同等である。	上回っている
国語B	・「読むこと」を問う問題は、平均を上回るものの、「書くこと」に関する問題は、全国・福岡県平均正答率を下回り、課題が残る。	上回っている
算数A	・「数と計算」「量と測定」に関する問題は平均を大きく上回り、「図形」に関する問題も概ね理解できている。「数量関係」に関する問題に課題が残る。	上回っている
算数B	・「数量関係」に関する問題は平均を若干下回っているが、無解答率が低く、記述式の問題は全ての領域において平均を上回っている。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・朝食を食べたり、同じ時刻に起きたり寝たりすることなどの基本的な生活習慣は全国平均以上である。
・家庭での学習習慣は、全国平均に比べ定着している。今後は、授業の復習だけでなく予習にも取り組む必要がある。
・自分にはよいところがあるともっている児童や将来の夢や希望をもっている児童は全国平均よりやや多い。今後もそれぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。
・家庭での読書習慣の更なる定着に取り組む必要がある。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組 (全校で・学年で・学級で)

○読書タイムの充実。○各学年の実態に応じた「書くこと」「読むこと」の習慣化～日記を書く。○国語科や算数科等の時間で身につけたことを総合的な学習の時間などで活用できる学習活動を組む。等

② 家庭生活習慣等に関する取組

○さらなる「生活がんばりカード」の推進・・・昨年度から今年度にかけての「生活がんばりカード」の成果を発信し、基本的な生活習慣の大切さを家庭に啓発していく。